

日本家庭科教育学会第 64 回大会声明

2021 年 7 月 4 日

日本家庭科教育学会は、第 64 回大会において、次の声明を発表します。

日本家庭科教育学会第 64 回大会のシンポジウムは「家庭科温故知新～SDGs を通して考える未来につながる家庭科教育」を、ラウンドテーブルは「家庭科における SDGs をふまえた授業づくり」をテーマとして開催しました。このテーマ設定は、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 拡大により中止せざるをえなかった第 63 回大会時からの 2 年越しの企画であり、家庭科教育を通して牽引し続けてきた「SDGs」の達成への貢献を内外に発信し、「これまでの家庭科教育の成果と課題を確認し、未来に向けた次の一步を踏み出す」位置づけとなりました。

SDGs は、2015 年 9 月の国連総会で採択された持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals) であり、「持続可能な社会」づくりに世界中のすべての人々が取り組むべき目標やターゲットをまとめたものです。2000 年に採択されたミレニアム開発目標 (MDGs=Millennium Development Goals) を引き継ぎ、2002 年の「持続可能な開発のための教育」(ESD=Education for Sustainable Development) が推進されてきました。こうした背景のもと、「持続可能な社会」構築の担い手育成が家庭科教育への期待となって今日に至っています。それを端的に示しているのが、学習指導要領です。すでに、「自分の家庭生活について環境に配慮した工夫ができるようにする」(小学校学習指導要領 家庭 1998 年 12 月 14 日 文部省告示) から始まり、「家族・家庭生活、衣食住の生活、消費生活・環境に関する日常生活の様々な問題を、協力、健康・快適・安全、生活文化の大切さへの気付き、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、一連の学習過程を通して身に付けた力を、家庭生活をよりよくするために生かして実践しようとする態度」(小学校学習指導要領解説 家庭編 2017 年) と明確です。

本学会会員の家庭科の実践が「持続可能な社会」づくりにつながり、SDGs の達成のための教育に貢献しているのです。日常生活から SDGs の目標に掲げられた 17 の項目と学習内容を網羅的に扱える家庭科は、学ぶ子どもたちにとっても自分のことと「持続可能な社会」を結びつけて実感できる特徴を持っています。

本学会では、「家庭科教育学会誌」に「家庭科教育と SDGs」シリーズを特設し、「SDGs とは？家庭科教育と SDGs との関連は？」(第 62 巻 第 4 号、2020. 2) から始まり、「家庭科の家族・家庭生活領域の学習と SDGs」、「家庭科の『高齢者』に関する学習と SDGs」、「家庭科の保育学習と SDGs」、「家庭科食生活領域の学習と SDGs」、「家庭科の衣生活学習と SDGs」等と 9 回(2022. 2) まで続きます。

また、2020 年度から 2 年間の「第 5 次課題研究」のテーマを「SDGs 時代の家庭科教育」として、①ジェンダー平等を目指す家庭科教育の理論研究や調査・実証研究 ②衣・食・住、消費と環境の実践的・体験的な学習活動を生かし SDGs を目指す家庭科教育の理論研究や調査・実証研究 ③SDGs を目指す家庭科教員養成に関する調査・実証研究が、2020 年 1 月から活動しています。

今後も、日本家庭科教育学会は、「持続可能な社会」構築の担い手である子どもたちへの家庭科教育と家庭科研究を通じて、SDGs の達成に向けて貢献します。